

東北支部第53回学術大会

(第5回東北放射線医療技術学術大会)

実行委員長 岡田 明男

平成27年10月31日、11月1日の2日間、山田 金市大会長(山形大学医学部附属病院)の指揮のもと山形市の山形テルサにおいて、東北支部第53回学術大会(第5回東北放射線医療技術学術大会)を開催いたしました。この学術大会は、日本放射線技術学会東北支部と日本診療放射線技師会東北地域技師会との合同開催を2011年から始め、今回で5回目を迎えました。今大会のテーマは、「放射線診療の未来へつなぐ技術・知識・信頼」に掲げ、「がん診療」などにスポットを当てた企画を行いました。

特別講演は、山形大学に東北地区で初となる重粒子線がん治療装置の設置が決定したと言う事で、山形大学医学部放射線腫瘍学講座の根本建二先生より、「山形大学における重粒子線治療プロジェクト」と題してご講演をいただきました。また、企画シンポジウムのテーマを「がん診療における放射線技術」として、各モダリティーのがん治療・診断の現状、最新の情報及び将来展望についてのお話をいただきました。

大会企画として、一つが「医・工・産連携研究の現状と展望」を企画し病院と工学部、さらに企業を含めた医・工・産連携研究の現状と展望について、専門の先生にお話して頂きました。もう一つが、2部構成の市民公開講座を企画しました。市民公開講座は、1部を「マンモグラフィはどうして痛いのか?」というタイトルで乳がんの早期発見に必要なマンモグラフィに関して必要性や疑問に関して、現役の放射線技師がわかりやすく説明しました。また、2部では、戦後無医村だった山形県大井沢村に生涯を医療に捧げた医師・志田周子さんの人生を映画化し、山形で製作された映画「いしゃ先生」の原作者で脚本家のあべ美佳先生に講演をいただきました。学会特別企画は、JSRTでは国際化が大きなテーマであり、2016年JRCからの学術発表では英語スライドが基本となることから「英語スライド作成セミナー」を開催しました。また、「放射線管理士に求められる活動とは」と題して、各県の放射線管理士による被ばく管理・被ばく低減活動を報告して頂き討論を行いました。

一般演題発表は、心配をしておりましたが昨年同様に125演題もの登録をいただきました。2日間での開催は、かなり厳しい運営となり、2日目には同時5会場の平行進行とならざるをえませんでした。皆様方には大変ご迷惑をおかけしました。情報交換会についても、180名あまりの会員・関係者にご参加頂き大変ありがとうございました。この様に盛会裏に本学術大会を終了することが出来ましたこと実行委員一同こころより感謝申し上げます。

大会要項

会期・会場 : 平成27年10月31日(土)～11月1日(日)、山形テルサ

テ マ : 「放射線診療の未来へつなぐ技術・知識・信頼」

参 加 数 : 539名(会員:487名、非会員:24名)、市民公開講座(40名)

内 容 : (1)一般演題数125演題

- ① 秋田:11題、青森:8題、岩手:4題、宮城:40題、福島:38題、新潟:6題、山形:18題)
- ② MRI:25題、CT:25題、一般・マンモ撮影検査:8、消化管撮影検査:1、血管撮影:8、核医学・PET検査:15、放射線治療:30題、医療情報:2、放射線管理:3、医療安全:2、教育・人材育成:1、その他:5
- ③ 両会員:71題、技術学会会員:37題、技師会会員:7題、学生:4題、学生技術学会会員:3題、両非会員:3題

(2) 広告42社(全頁21社、半頁21社)、機器展示18社

(3) 特別講演 「山形大学における重粒子線治療プロジェクト」

(4) 学術大会特別企画 「医・工・産連携研究の現状と展望」

(5) 企画シンポジウム 「がん診療における放射線技術」

(6) 学会特別企画(技師会・技術学会セミナー)

「放射線管理士に求められる活動とは」～県における取り組みから～

「英語スライド作成セミナー」

(7) テクニカルミーティング 6分野

(8) ランチョンセミナー 4題

(9) 市民公開講座 2部制

第1部 「マンモグラフィはどうして痛いのか?」

第2部 「いしゃ先生からのメッセージ」